

平成23年度北海道師範塾「教師の道」夏季講座に参加して

北海道師範塾 塾生 大瀬 輝 哉

第1日目は、吉田塾頭が「最初に与えられた情報が常に正しいとは限らない」「権威ある人が言っていることが正しいとは限らない」とおっしゃっており、まさに福島第一原発のことを考えるとそうだなあと考えさせられました。

原先生のお話では、ダーウィンの引用で「変わるもののみが生き残る」と発言されており、「学び続ける教師だけが、教壇に立つことを許される」と重なるような気がしました。「謙虚さを失うと学ぶことが出来なくなる」というお言葉が印象に残りました。原先生は、癌と闘いながらも約1時間起立したままお話をしてください恐縮でした。また、先生は塾頭通信第84号に登場されており、新設される視覚障がい教育のセンター校の入学式や卒業式には来賓としてお元気な姿を見せていただきたいです。

深瀬様のお言葉「その仕事を通してどれだけ沢山の人の人に感動、感激、幸せを与えられるかで、プロ中のプロか、並のプロか、プロにもなれないプロかが決まる」をお聞きし、教師としてプロ中のプロを目指さないと、との思いを再認識しました。

近田校長先生のお言葉「机間巡視中に他の生徒にふれないでさりげなく、母さんどうよと言って、黒板の前に来て、それでは次の問題を」とやれる教師になりたいです。

ヘルプミー・トークの時間のみ外出しておりましたが、塾頭通信第1号の中で、「迷える子羊」に手を差し延べる講座と書かれており、2月の時点から夏期講座に向けて検討されていたんだなあと脱帽しました。

「牛の歩み」の編集後記に目を通しますと、ホームページに塾頭通信がアップされるまでに、佐々木朗理事、沓澤整治理事のご尽力があることを知りました。塾頭通信を拝見するにあたり、お二人への感謝の気持ちを忘れずに今後も読ませていただきます。

第2日目は、橋爪理事の「短くしかる、長い説教は子どもが飽きる」、「ものを用意して子どもたちを引きつける」というお話が参考になりました。「まわりを味方につけつめる」が面白かったです。

小林様のお話では、「やる気があれば伝わる、子どもの目つきをみれば分かる」というお言葉が印象的でした。

相澤理事は定年間近ですが、ハム無線3級の取得を目指されており、災害時にボランティアで力になろうとされており、鈴木先生の「奉仕」というお言葉を思い出しました。

相澤理事は、昭和56年の大水害時に災害対策本部 防災担当として、3日間家に帰ることなく職務をまっとうされたとお聞きし、有珠山の噴火の際、現地災害対策本部にいらっしゃった吉田塾頭（塾頭通信第46号より）とともに、道民の生命を守るために北海道師範塾の理事が活動されていると知り、驚きました。

第1日の懇親会では荘司様の「教育に公も私もない」というお話から、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、専門学校と長きに渡って、教育に携わってこられた荘司様の誇りを感じました。

原先生の万歳のお話も国旗・国歌と同じでマナーだと感じました。

荘司様82歳、原様85歳。吉田塾頭にはあと20年間は塾頭を続けていただけると期待しております。教育長を辞められた後も、北海道の教育の為に尽くされております、塾頭はじめ、理事の皆様が将来、天皇陛下から勲章を授与され、北海道師範塾一同で喜べる日を心待ちにしております。